

共同研究と個人研究について

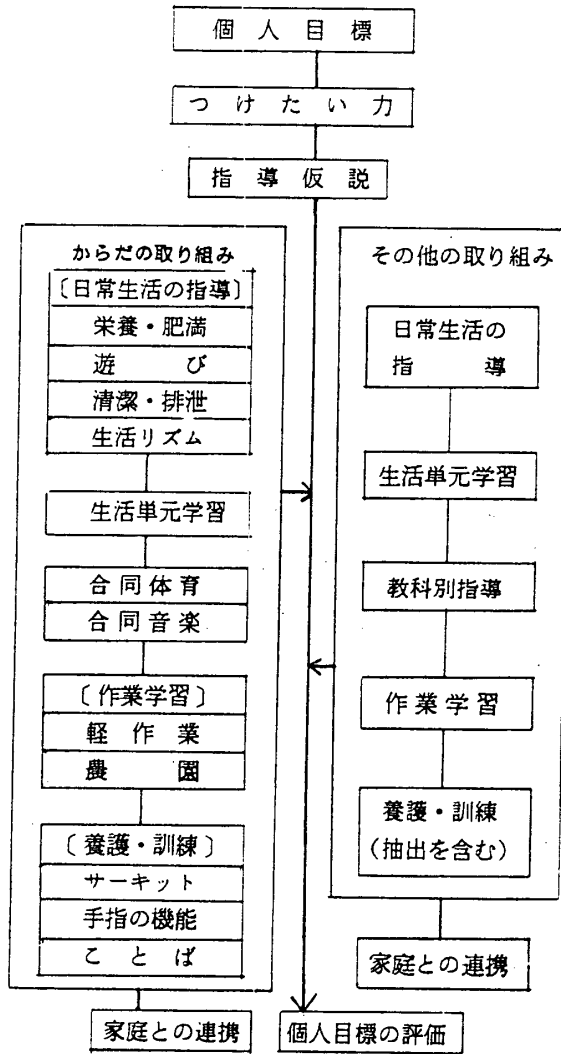
我々は、一人ひとりの生徒の発達の遅れや障害の偏りに応じて、過去の経過、これからの見通しを背景に、できれば1年間で達成できる見通しのある個人目標（個へのねがい）を5月当初全員に設定している。下の表は、その一例である。

〔図15〕 個人研究構想図

その個人目標に迫るために「どんな力を」「どんな場面で」「どんな内容や方法で」つけていくかを個に応じた特徴的に力点を置き、組み立てるのが右図14に示す個人研究の構想図である。個人研究は、からだからの取り組みのある部分に、より特徴的に重点を置いたものであったり、その他の取り組みの中のある部分に重点を置いたものであったりまちまちであるが、学部全体で取り組んだ「からだづくり」の考え方や実践を共通基盤に、更に個へ焦点化した取り組みの報告である。

今年は「授業づくり」に焦点を当てたため、授業場面での個の生かし方等にふれた実践例が述べられているのが特徴的である。

- ・安定した気持でじっくり取り組む子
- ・友だちといっしょにいきいきと活動する子
- ・集団の中で友達といっしょに活動する子
- ・見通しを持ち、自信を持って積極的に行動する子
- ・自信を持っていろいろな事に最後まで取り組む子
- ・見通しを持って意欲的に取り組む子
- ・できるだけ長い時間、目的意識を持ってみんなと一緒に取り組む子
- ・今持っている力を十分発揮し、生き生きと楽しそうに行動する子



以下、「遊び的労働の中の色々な活動に挑戦させ、少しずつではあるが援助されないでできる事を増やし、やる気を育てようとした」岸田の実践、「手ごたえのある楽しい学校生活の中に、どんどん自分を開かせ、やる気と自信を持たせていこうとした」出脇の実践、「からだを生かし使う生活から得た自信を支えに、文字言語や表出言語からの自己表現への挑戦を試みようとした」河田の実践、「遊び的労働の遊びの部分を生かしながら学習に参加させ、自分の仕事に集中して取り組ませようとした」八木恵美子の実践、「見通しと段取りを持って仕事に取り組ませ、成就感と自信からやる気を育てて、いろいろな事に挑戦させていこうとした」白田の実践、「小刻みの指示や対応で仕事にしっかり取り組ませ、やり遂げ、認められた喜びから、少しずつふんばる力や自律的な生活態度を育てていこうとした」前島の実践を報告する。